

「もう、せつかちさんだなく
まだ始まったばかりなんだから
もつとゆっくり楽しもうよ♪」

ドキ

ドキ



ドキ

ドキ



はあ

はあ



「ほらあ、
キミのだーい好きな
ほのマンのだより♪
いっっぱい可愛がつてね♪」

ハア
ハア

プル

プル

ぷん
ぷん

ぷん
ぷん

ぷん
ぷん

「でも…そんなにジロジロ見られると
なんだか…少し…恥ずかしくなっちゃうよお…」

ハア
ハア

ブル

ブルブル

ブル

ブル



「そんなに私としたいのですか…？
いえ…嫌って訳ではないんです…
ほ、本当です…」

はぁ

ドキ



はぁ

ドキ



「ほ、ほら…そんな言うのなら…
しよ、証拠を見せてあげます…っ」

はぁ

ドキ
♡

はぁ

ドキ
♡

んっ

んっ

んっ♡



「は、恥ずかしい……
もう、濡れたいですか……？
え？濡れてる……？ダメ……
見ちゃ……ダメです……」

はー
はー

ん
ん

ん
ん

た
る
る
る



「きゃん♪
私もキミの事ずっと待ってたんだよ♪
ちよつと恥ずかしいけど一緒に気持ち
良くなるうね♪」

きゃん♡

ど
きゃん♡

ど
きゃん♡



「もうっ…っ
こんなになにグチヨグチヨだよお…
朝からずつと「こんなだよ…」

はぁ♡

はぁ♡

ぐゅ

ぐゅ

ぐゅ

ぐゅ



「きゃん…っ♪
もう、慌てすぎだよお…
大丈夫だから、
私のマ○コは逃げないよお…」

